

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		川西市参画と協働のまちづくり推進会議	
事務局(担当課)		地域分権推進課	
開催日時		平成23年9月9日(金) 午後6時から8時00分	
開催場所		7階 大会議室	
出席者	委員	岩崎会長、高畑副会長、相川委員、磯部委員、荻田委員、荻本委員、奥村委員、佐伯委員、佐島委員、土肥委員	
	その他	地域・相談課長 市民活動センター・男女共同参画センター指定管理者 (特活)市民事務局かわにし	
	事務局	総合政策部長、地域分権推進課長、同課課長補佐、同課主任、	
傍聴の可否		可	傍聴者数 4人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		(1)開会 (2)基本計画の策定について (3)閉会	
会議結果		別紙議事録のとおり	

## 審 議 経 過

【開会】  
会長

6時になりましたので、「第6回川西市参画と協働のまちづくり推進会議」を開会させていただきます。

お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

前回の議論は少し、我々が何を検討するのか分からなくなりましたところがありました。今日配布していただいている資料は非常に簡単なものですが、少し前回の議論を少し振り返っておきたいと思えます。

前回の議論ですが、我々がまずやらないといけないことは、今年度中に全市的な市全体としての参画と協働の仕組みとはどういうものかということ議論いただき、そして来年度、地域分権ということで、地域ごとに立てたビジョンの実現に向けて、具体的な地域分権の制度の仕組み、制度はどのようなものが望ましいのかという議論をしていただく。地域分権の話については、来年度ということになります。私たちは、まずは全市的な参画と協働の課題と、それからそれをどう解決していくかという解決策を議論していこうではないかということになります。

また総合計画の策定も同時期に走っていますので、それとどういふふうに関係するのかという議論がございました。ただ、参画と協働の仕組みについてですが、全市一斉というものだけではなく、地域性を踏まえたものに必ずしなくてはいけない、多様性を認めなければいけないということは、全体を考える中でも言うておかなければいけない大原則になると思います。一つの小学校区に納まらない広域的な課題に対する参画と協働の仕組みに関する議論を主にやりながら、地域課題の検討に際しては必ず地域の特性に配慮してやりましょうという釘の刺し方をしておかなければいけないという議論もありました。

また、例えば、今後、参画と協働を進める中で、今まで足りない部分、課題についてはたくさんご議論いただいているわけですが、それを解決する為にこんな取り組みや新たな仕組みがなければならぬのではないかとということをもう一度振り返っていただき、具体的なものから逆に、施策の括りや、こういうことをやるべきではないかと見直していくような進め方が必要だろうと思えますし、それだけに皆さん方が今まで川西で暮らしていらっやって、そして地域活動を色々な立場でおやりになっている中での具体的なお話でよいと思えます

事務局

ので、今日はアイデア出しということをお願いしたいと思います。

前回の資料がございましたが、この資料の中で、今まで課題を出していただいたものについて、今日は資料の左側に纏めていただきました。ではこの資料について、ご説明いただけますでしょうか。

失礼いたします。それでは、今日の配布資料の説明をさせていただきます。今日はレジюмеと資料1ということで、2枚配布させていただいております。

資料1ですが、これは前回の推進会議の時に資料1として「計画のイメージ」ということでお配りさせていただいたのですが、会長が言われたように、6～7ページに書かれた主体ごとの課題を、今回の資料1の左側に並べております。右側のほうは、課題解決策の案ということで書いていますが、前回の資料1の最後の8ページをご覧くださいますと、施策の方向性ということで、情報共有の仕組みづくりなど、ジャンルに分けたものがございますが、そのうちの具体的な取り組みというところが前回空欄になっておりまして、なかなかアイデア出しのところまで行かなかったのですが、参考にさせていただきたいと思ひまして、本日の資料1では一番上に書いておりますが、これまでのワークショップや推進会議で出していただいたご意見を今日の会議の参考として集約して分類したものを記載させていただいております。

これはあくまで参考ということで、入れさせていただいております。ここには具体的なことは書いておりませんので、これを見ながら、左の課題を解決するためにどんなことをやっていけばいいのかというようなアイデア出しをしていただきたいと思います。

一番右下をご覧くださいますと、「その他」のところ、財政的支援、活動拠点整備、評価検証の仕組みがありまして、前回はありませんでしたが、今日はその下に「地域自治」ということで、箱を一つ設けさせていただいております。ここは特に解決策の案といたしまして、ワークショップの中で、色々地域活動を通じた地域自治の仕組みの話がありましたので、そういった課題解決の案をここに書かせていただいております。一つ一つ説明しているとなかなか時間がないので、ざっと見ていただければと思うのですが、一つ一つ

<p>会長</p>	<p>説明したほうがよいでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>いえ、ごく簡単でよいと思います。</p> <p>では、(1)情報共有のしくみづくりですが、情報収集、情報発信、情報交流に分けさせていただいております。こちらの情報収集のほうは、二つ挙げているのですが、色んな市民活動の総合的な情報窓口の設置や、行政内部で色んな地域情報を持っているけれど、それを集めて共有する仕組みを作るだけでも、かなり効果があるのではないかと。また、情報発信の部分では、参画と協働についてPRが足りないのので、どんどんPRしていけばいい。では、こういう審議会の会議録を分かりやすく公開していく方法があるのではないかと。情報交流では、例えばでは、市民の皆さんと行政がコミュニケーションをとる場がなかなか少ないので、そういう場を設定するなどです。</p> <p>(2)の担い手のところでは、人材発掘、人材育成、人材支援に分けておりますが、特に人材発掘の部分では、のやりたいと思っている方はたくさんいらっしゃるのですが、地域においてもやりたい気持ちを受け止める場がなかなか無いので、そういう場が全市的にもあればよいし、地域の中にもあればよいという話が出ていたかと思っております。また、人材育成の部分では、例えばの市民のコーディネーターを育成するようなリーダー養成講座みたいなもの。それから人材支援のところでは、まちづくり活動は色んな段階があると思うのですが、特に初動期のまちづくりの活動を支援する仕組みであるとか、個別に運営アドバイザーを派遣する仕組みなど、そういった話がワークショップの中では出ておりました。</p> <p>(3)ですが、意識啓発のしくみづくりということで、大きくは、市職員の意識改革の部分と、市民の皆さんの意識改革の部分に分けておりますが、特に市職員の意識改革の部分では、では行政内が縦割りだという批判がよくありますので、それを無くして、横断的に動ける仕組みが要るのではないかと、では、行政がどんどん地域の皆さんや市民活動をサポートする力をつけていかなければいけないという話が出</p>

ておりました。市民等の意識改革の方では、市民の皆さんの意識付けができるような市民の集会の開催であるとか、協働事業が提案できる制度を作ってはどうかという話が出ていました。

(4)その他の部分では、財政的な支援と活動拠点の整備、市の事業を全体的に評価する評価検証の仕組み、それから最後は地域の自治ということで分けております。財政的支援では、特に協働での企画提案や、市民の活動に対する助成制度というのが要るのではないかと。また、行政がどんなことを市民に助けてもらいたいかという事業をお知らせすることによって、市民アイデアをいただくというような制度を作ってはどうか。活動拠点の整備の話では、今なかなか活動拠点が少ないという話が出ておりました、小学校の空き教室であるとか、公民館とか、コミュニティセンターとか自治会館とか、色々あるのですが、そういったものを色々アイデアを出して充実させていくことが必要であろうということ。では、今は市民活動センターとボランティア活動センターが別々にあるのですが、そういったところの連携がなかなか取れていないのではないかと話が出ておりましたので、どう整合性を取らせていくとか、連携していくという話だったかと思えます。それから一番下の地域自治のところでは、市民の自治活動を支援する仕組みをどんどん作っていかねばいけないという話や、では各地域の担当職員制度が必要ではないか、コミュニティビジネスを立ち上げるとか、それを市が支援していく、各地域のまちづくり計画の策定が必要ではないかというような意見がこれまで出ていたかと思えます。

以上ですが、今日は参考までにこの資料を作っておりますが、これにとらわれる必要はございませんので、色々なアイデアを出していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

会長

一応ざっと説明をいただきました。今までの推進会議で出てきた意見もあれば、ワークショップで出てきた意見もあり、あくまで参考であります。ただ、個別の地域で色んなことをやっていくという話は、来年度以降ということになりま

す。今しっかりと、市と市民、市全体の市民同士の関係を参画協働で作っておかなければ、来年度以降、地域の話を始めるときに、それがバラバラになってしまう可能性があります。

ですから、ここで、条例の推進ということで、全体の具体的なアイデアというものを一旦整理しておく必要があるのだろうということです。まずは、お気づきの点、どこからでもいいと思いますが、ご意見いただければと思います。どうでしょうか。

委員

質問でもいいですか。一つお聞きしたいのですが、この解決策案(1)から(4)までですが、私は大変結構だと思います。是非この方向で推進したらよいと思います。ただ、参考のためにお聞きしたいのですが、これらについて、現在、市のほうにあるポテンシャルというかキャパシティは、十分これに対応できるだけのものがあるのかどうか。時間との関係もありますけれども、それが優先順位を付けながらこなしていこうというのか、現在十分これに対応するだけの力があるというのか。参考まで結構です。

事務局

おっしゃるとおり、なかなかこれらを全部一度にやろうと思いますと、当然お金もかかってまいります。当然、優先順位は付ける必要があると思っています。色々アイデア出しをいただいた中で、特にこれを最初に進めないともまずいなどというご意見もいただきたいと思いますし、特にハード面の整備などは、非常にお金がかかります。ご存知のとおり、財政状況が非常に厳しいですので、そこはなんとかアイデアを出すことによって、お金では解決できないような付加価値を付けたりとか、何かそういうアイデアをいただければと思っています。今は並べて出しておりますけれども、アイデアを全部出していただいた後に、「じゃ、これからやっっていこう」という順序付けもご意見いただけたらと思いますので、お願いいたします。

委員

ありがとうございます。

<p>会長</p>	<p>よろしいでしょうか。いかがでしょう。具体的なアイデアを。</p>
<p>委員</p>	<p>すみません、進め方の質問です。前回の資料でいただいていたワークショップの報告書では、それぞれ行政がこれをする、市民がこれをする、一緒にこれをする主体を書き分けていたと思うのですが、今回の右側を見ると良く分からないのです。(3)の意識改革のしくみづくりのところだけ、市職員と市民に分けてあるのですが、その他はだいたい行政がというふうに読んでいいのでしょうか。</p> <p>つまり優先順位を考えたときに、自分たちがやるのか、行政にお願いするのかわ変わってきますので、その辺の整理をしたほうがいいと思います。</p> <p>それから(2)の担い手の発掘のところ、人材支援というのがあるのですが、前に活動支援という言い方をされていたと思います。それを活動支援ではなく人材支援にして、財政支援と分けた狙いというか考えをお聞かせください。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず1点目のほうですが、基本的に今作っていただいている基本計画は、条例に基づいて作っているわけですが、条例では、「市が市民等との協働を推進するためにこういう施策を講じなければならない」と書いております。ですから、基本的には市が施策としてやっていく計画だと考えておりますが、ただ当然、市だけで全部できるわけではございませんので、施策としては進めていきますが、ここの部分については市民との協働でやっていくとか、そういう棲み分けは出てこようとは思っております。</p> <p>それから人材支援については、前回も人材支援ということで分けておりますので、ここは変えておりません。</p>
<p>委員</p>	<p>活動支援と人材支援というのがなかったですか。活動支援も含めて人材支援という意味でしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>人材支援という言葉が分かりにくいかもしれませんので、ここのジャンル分けについても今は確定したものではございませんので、これもご意見いただきたいと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>確かに人材育成ときて、その人材を支援するというより、むしろ人が集まった団体であるとか、その活動を支援するということになるのですかね。</p> <p>例えばで言うと、評価検証のしくみのところで、市民が市を評価する第三者機関の設置が考えられるというのがありますが、市民活動や地域で様々な活動をするときに、一番重要なのは、私は、「市民が市民の活動を評価する」ということが必要なのではないかと思うのです。市民が市を評価するというのも、当然のことながら、参画と協働では必要になります。色んな事を市民が地域で始めるにあたって、その市民の活動を市民が評価する。あるいは、それは市民のコンプライアンス、団体がちゃんと法に則って、そして説明責任を果たしているかということも評価するような、「市民が市民の活動を評価する」ような仕組みが具体的に必要になるのではないかということも評価・検証のしくみの中に付け加えて考えておく必要があるだろうなど。こういう付け加えや、より具体的なことでも結構ですので、皆さんが日々の活動でお感じになっていることを、左側の課題をご覧いただきながら、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>会長が今おっしゃった「市民の市民による評価」は確かに必要だと思います。その場合、今おっしゃったのは、終点の話です。入り口のところでの捉え方というか評価というか、厳密な評価は要らないですが、ただ何でもかんでも、入ってくる人は拒まざることを色んなことを言い出したら、整理がつかない気がします。</p>
<p>会長</p>	<p>入り口のところの評価ということですか。</p>
<p>委員</p>	<p>まだ成果が上がっていない段階でのものですから、まだ捉え方が違いますけど、ずっと最後まで見ていて、それだけの価値のある仕事ができるのかという問題ですよ。そこまではする必要はない、必要なものだけピックアップしてやればいいというなら、それでいいですが。</p>
<p>会長</p>	<p>例えば、ある団体が何か事業をしようとするね。本当に事業がで</p>



	<p>きるのかどうか怪しいけれどもやり始めた。私はそれはそれで、やっていただければいいのではないかと思います。ただ、その結果がちゃんと市民の間で評価できるもの、評価に耐えるものであればいいわけですし、変な話ですが、途中でポシャってしまった場合というのかなり想定はできるだろうと思います。</p>
委員	<p>それはそれで放っておけばいいというお考えですか。</p>
会長	<p>いえ、それは放っておけません。税金を一部投入するわけですから、何らかの形で、当然責任を負ってもらわなければなりません。</p>
委員	<p>だから、どの時点を抑えて評価するのかと、それだけなのです。スタートのところで整理してしまうのかどうか。</p>
会長	<p>たぶん、スタートでは整理できないですね。</p>
委員	<p>一年間の評価でしょうね。まずは決算報告書を出しますし、事業報告を出すわけですから、その時点でやるのが一番いいのではないかと思います。2年3年放っておくことはないですよ。</p>
会長	<p>それはないです。当然。</p>
委員	<p>ただ、委員が心配しているのは、決め事はそうなのですが、実際に、市民の本当の気持ちに付随していないという場合の意見が通るのかどうかということを心配しているのかと思ったのですが。</p>
委員	<p>その辺もありますけど。</p>
委員	<p>NPOと同じなのですよ。「こんな団体なんか何やの」と市民が思っても、結局は相手側に伝わらない。公なところでも判断できないじゃないですか。そういうことも有り得るということです。</p>
会長	<p>相手にその評価を伝える場が無いということですか。</p>
委員	<p>地域団体というのは、やはり1,000人も2,000人もいますから、第三者機関を作るといっても、一部の方から選出されます。どうしても、</p>

	<p>一部の人が第三者機関をやって、その第三者機関自体が評価できるのかということです。見直しをできればいいのですが、いつまで経っても第三者機関が同じ一方向のベクトルしか考えられない人たちが集まった場合に、良いものが消されることもあれば、色んな弊害が出ることもあると思います。それは今の団体でも同じです。</p>
<p>委員</p>	<p>だいたい近いところをおっしゃっているのかもしれませんが、要するに、最後の最後のところでの評価で、初めて「こうだった、ああだった」というのではなく、活動を一度認めたとしたら、そこへそれなりのお金が出て行くかもしれない。そうすると、そんな資金を出してまで、きちっと面倒を見るに値するかどうかをスタート時点で押さえて、ダメなのはダメというようにしておかなければ、それはスタート直前であるか半年であるかは別として、その全てのことを最後の段階での評価まで待っていいのかというだけの話です。心配しなくていいならそれはそれでいい。</p>
<p>会長</p>	<p>心配しなくてもいいというよりも、むしろ、ちゃんとその団体が事業計画であるとか、このお金でこんな事業計画をやっていこうと思うとかいう計画があって、そしてその進行をちゃんと地域の人達あるいは団体のメンバーに知らせて、そして最終的には成果がこうですという報告があって、決算をちゃんと打てて、そして尚且つ、その事業が地域の人にこんなに役に立ちましたと、第三者から役に立ったのか、役に立つためにもっとこうしなければならなかったという評価を最後にしてもらおうというプロセスを持っておかなければまずいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ただ、私が思うには、現実的に市も国も同じですが、決して100%の人が良いということは有り得ないわけですよ。そこは難しく、過小評価であっても、良いこともあるということはどう判断するのが難しい。だから皆が喜んだから良いというものでもないわけで、その辺が、これから進めるにあたって難しい。それに、いちいち評価させると、やる側も難しいのですよ。やっている最中に逐一評価されると、1年間やった結果、それを改善して、2年3年の継続の結果ようやく実るものもあるので、あまり厳しくしてしまうとやりにくいということもある。だから評価というのは、やっている方の意識としては、すごく難しい。でも、やってみなさい。やってみたら分かります。頭で</p>

	<p>考えるより、やることですね。</p>
委員	<p>要するに、私は、支援に値するものを最初にスクリーニングしておかなければ、無駄が出るということを言いたかったのです。</p>
会長	<p>無駄は当然できるだけ無くしていかなければならないけれど、市民の活動は、何が無駄かは必ずしも直ちには言えないですよ。それは、むしろ、やっていただく意欲とか地域の課題によるだろうし、実際やってみないと分からない部分がありますね。</p>
委員	<p>ただ、寛容になりすぎたら駄目だということを申し上げているのです。</p>
会長	<p>それはそうですね。 評価のところでも色々な議論になってしまいましたが、どうぞ、どの部分でも、日ごろお考えのところまで。</p>
委員	<p>今の活動主体というのは、市民と市民公益活動団体、事業者。それは、既存の団体、もしくは既存の事業者を対象とされているわけですね。新しくこの参画と協働のまちづくり推進条例ができたので、新しくやろうという団体が出てきた場合は、それは行政のほうとして、どこにいったらいいのですか。今年度から地域別懇談会ということで、小学校区単位の課題の抽出をしていますが、それとは別の話になるわけですね。もし、そういう団体が出てくれば、そういう活動団体を、それはOKですよ、それはペケですよという判断はどうなるのですか。今の入り口の問題になるかもしれませんが。</p>
事務局	<p>今年度、地域別懇談会をさせていただいて、来年度に制度の仕組みを検討すると、前回お話ししましたが、今年度はあくまでも地縁団体というくくりの中ですので、受け皿という議論では新たなところが出てくるかもしれませんが、今のところは地縁団体かなと思います。</p>
委員	<p>地域別懇談会、私のところは終わったのですが、あくまでも私たちの地域はどうあるべきかということですから、他の地域の団体にお任せするという事ではないし、そうなれば話が進まないと思います。</p>

<p>委員</p>	<p>事業者も一つの主体だという話をされていたので、我々のコミュニティは事業者とタイアップして、一緒に話し合いの場をもってそのような活動をしていこうという考え方にもなるわけです。これは前回、地域別懇談会はあくまで「地域を良くしていこう、住みたいまちにしていこう」というものだとのことでした。このようなまちづくりをしていこうということで、事業者単独でも可能なわけですね。両方が合体するというケースもあるわけですね。今、地縁という話ができましたが、地域を主体とした活動になると思いますが、個人的には、コミュニティを中心に考えていますが、それ以外にも団体はたくさんありますので。</p>
<p>事務局</p>	<p>少しさきほどの説明に補足しますと、来年度、地域分権制度の具体的な仕組みづくりに入っていきます。その中には、委員が言われたように、地域の中には事業者も含めて色んな活動団体がある。今年度作っていただいた地域のありたい姿というのを実現していくためにコミュニティなり自治会なり地区福祉委員会なり、そういうのが主体になってやってもらわないといけないでしょうけれど、例えば商店街の皆さんと一緒にやろうとか、その地域を盛り上げていくために、どういう主体と一緒にやれば、それが効果的に実現できるのだろうか、これも含めて考えていかなければならないと思うので、そういう意味では、「地縁」という発想を少し超えるかもしれませんね。</p>
<p>委員</p>	<p>特に中央地区は、ご存知だと思いますが、マンションが建ったり、商業者の方がどんどん衰退していっています。大手のスーパーなどが、どんどん幅を利かせています。事業者がどんどん減っているわけです。中心部は特に。今までのコミュニティは事業者と繋がって一緒にやるということはなかったのですが、地域全体のことを考えたら、必然的にその事業者と一緒にやらなければならない部分が出てくると。そうなった時に、今、4つの活動主体がありますが、それぞれがやっているのですが、市民というと全部入りますから。そういう中で、入り口の部分でタイアップして、新たな一つの団体を作ったとなったときに、入れてもらえるのかという話になってくる。</p>
<p>会長</p>	<p>言い方としては、「入れてもらえるのかどうか」ではなくて、正に「来るものは拒まない」という姿勢が必要だということでしょう。要するに、地域の課題を解決するという目標があって、その目標に対し</p>

	<p>て、この指止まれで、色々な人にこの指に止まってもらったほうがいいだろうと思うのです。その中には、企業が当然あるだろうし、地域の商店街、組合さんが一緒にやろうという、正に来るものは拒まないという精神でなければまずいということがありますよね。</p>
<p>委員</p>	<p>この辺の中央地区だけかもしれませんがね。能勢口はそういう商業組合等がありますから、中心市街地の活性化の協議会が存在していますが、でも我々地域の間人は、入っていません。事業者だけがやっています。ばらばらに地域のことをやっているという形があるわけです。こういう参画と協働のまちづくりを考えていった場合に、今まではお互いに何も勉強しなかった。これからはする必要が出てくるのかなという気もしています。</p>
<p>委員</p>	<p>今、言われたことは非常によく分かります。情報交流の にラウンドテーブルだけは入っています。ここをもっともっと膨らませて、この地区では事業者を巻き込む、この地区では他のNPOを巻き込むというように、地域がそれぞれにデザインしてラウンドテーブルの参加者を選ぶというふうにし少し膨らませたほうがいい。</p> <p>また、(4) その他の財政的支援策、 協働で企画実施したり活動に対する助成制度のところ、インセンティブを付けることはできると思うのです。自分たちだけでやっているのが50ポイントだとしたら、今まで繋がっていなかった商店街の人と一緒に企画する場合は100ポイントつけるとか。そのような加点方式の提案制度というのは、これまで兵庫県でもいくつか事例はありました。知らない同士の連携を促進するには、財政的支援のところインセンティブをつけるのが良いと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>先程、事業者というのが出ましたので。今更なのですが、地方分権は分かるのですが、地域分権というのは、相変わらずよく分からないので、ここはずっとハテナなのですが、我々事業者は、当然、商店街単位でその地域だけを対象としたご商売をされておられる方もいますが、市内全域にネットワークを張って、ご商売されている方もたくさんおられますので、そういう意味では市全体を繋げるという部分では、数も減っていった力も無いのですが、やはり貴重な存在かと思えます。こういった部分で関われるか、例えば、組織ならば商工会も当然ありますし、事業者ということで、当然、参画協働という部分でお</p>

	<p>手伝いさせていただきたいと思いますし、そういうところに何か支援いただける方法を具体的に取り入れていただいて、検討いただければと思います。地域には絶対に繋がりが必要なはずなので、その部分で事業者のネットワークというものを活用いただけないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>それは、事業者さんが社会貢献、地域貢献したいと思っていることと、地域の課題があまりうまく繋がっていないという現状の反映なのですか。</p>
<p>委員</p>	<p>もともと川西という土地は、南北に長い土地で、北部の方はあまり南のことを知らなかったり、南の方は北部の状況をあまり分らなかったり、北部のほうは意外とよそから来られた方が多いので、お互いに干渉すべきではないと思っているわけではないのですが、情報が行き渡っていないという感じに見受けられるのです。そこに何か両者を引き合わせるようなきっかけのようなものを起こして、お互いにお互いを知るという仕組みを作れるのではないかと思うのですが。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっと教えていただきたいのです。ここの情報交流でラウンドテーブルの設置という考え方は大変大事で、必要なことだと思います。ただ、この考え方は、現在進行中のものが正しいのだという前提になっているのですね。私が先に申し上げたことと関連があるのですが、そこへ行くまでのところで、チェックが必要ではないか。どういうことかと言いますと、具体的になって申し訳ないのですが、酒の産業、池田に呉春という酒屋がある。非常に栄えていました。しかしある日衰退していくのです。それは池田の産業にとってもマイナスであるし、雇用も減るし、税収も減る。なぜそのようなことになったかと言うと、例えばダイハツ工業という大企業があって、リコー産業、その他諸々の産業が出てきて、地下水がどんどん減っていったのです。これはもう、行政と個別の企業が喧嘩しても喧嘩にならない。だからそれは諦めようということになるのか、一時、この呉春の社長はものすごく怒っていて、当時の市長に対して、「お前には絶対に呉春は売らない」と大喧嘩しているのです。私が言いたいのは、そういう産業が衰退していくことについて、行政は黙って見ていていいのか、市民が黙って見ていていいのか。強いものが勝っていくのが産業のルールだということで、それでいいのか。つまり、ラウンドテーブルというのは、どこの段階で乗せて論議するのかと。そういうことがあるのではな</p>

	<p>いか。それについて、そういう立場として、どのようなお考えを持っているのか。参考までにお聞きしたいと思います。</p>
会長	<p>産業政策というような大きなテーマでのラウンドテーブルをイメージするよりは、むしろ参画と協働で、今ここで議論していくことは、身近な生活課題ですよ。</p>
委員	<p>私が言いたいのは、酒屋さんの大きな産業レベルの話をしているわけではないのです。そのために市としても大きなトラブルになって、市民の方にとってもマイナスになります。このラウンドテーブルというのに取り上げるのが、どの程度のものが良いのか。皆さん、仲良しクラブのように、微調整で、問題の無いことだけを取り上げるラウンドテーブルなのか。臭いものに蓋をして問題のないところだけを取り上げるのか。あるいは、問題になるということが出てきた段階から取り上げるのか。そういうところに目を向けておかなければいけないということを言っているのです。</p>
会長	<p>地域の課題というものを解決するためのラウンドテーブルであることは確かです。</p>
委員	<p>特段のご意見があれば、聞かせていただきたいなと思っただけですので。</p>
委員	<p>このような公の場所では、なかなか喋りにくい部分もあるのですが、地元の事業者と行政と市民との関係が、このまちは、うまくいっているのかどうかを話さなければいけないと思うのですが、それは差し控えさせていただきたいのですが、ただ、事業者としてやはり市民に対して色んな部分でPRが足りないと感じていますので、それは自分の商売をPRするのとはまた別で、我々の存在というのを別の形でアピールできるようにしたいなと思っております。そんな感じをお願いします。</p>
委員	<p>今の意見でも、私はよく分からないのです。基本的には、地域のコミュニティとか自治会とか福祉部会がありますよね。そこで一番大事なものは、やはり理念だと思うのです。その部会の理念は何かということが分かれば、条文の1番から4番までありますが、地域の理念</p>

によって対応していけると私は思うのです。だから、事業者と市民の関係を言ってみたら、自治会でもコミュニティでも事業者でも、そんな幅の広い考え方が一致することはないと思うのです。事業者は儲けないといけないから、それなりの考えをしようと思う。事業者は事業者で、自分の会社の理念なり志を持っていると思うのです。それと同じように、我々地域の部会は、その地域に合った理念や志を持ってやっていると思うのです。例えば、10年20年やって、同じ事業をやっていたら、時代はどんどん進んでいきますから、やがてその事業は遅れてくるでしょう。そしたら何の意味もないわけです。それで新しい事業を取り入れなければいけないという考え方が理念なのですよね。そういうことをやらなければ、今の話はよく分かりませんでした。私は最初から地域のことばかり言っているようですが、それがまず、大事だと思うのです。

委員

よくわかります。私が言っているのは、行政の作為、不作為によって、意図せざる害を及ぼすことがあるということです。さっきの酒作り屋にしても、その地域にとっては大きな存在なのです。それが潰れてしまう。これは理念とか何とか以前の問題で、大きな問題なのです。だからそこを言っているのです。ここに書いてあるようなことは全て性善説というか、進行中のことは良いことなのだという前提があるのです。それ以前に、すでに間違っていることが出ているのではないか。それはその時点で是正しておかなければいけない。進んでしまってからでは、お互いに不経済で、損失も大きいです。小さい地域だから問題が大きくなるということを言っておきたい。

委員

先程、委員がポイントのことを言っておられましたが、私はポイントを貰うために繋がるという考え方は、あまり好きではありません。特に3番の市民提案型協働助成、コンペ方式、これら2つありますが、具体的にどのようなものかということをお教えいただきたい。また、財政的支援策の部分で、申し込みをすることも今後あると思うのですが、市民の力は、企業のようにパワーポイントを使ってうまく発表する技術は、あまり高くないと思います。その辺をうまく伝えられるかという問題も出てくる。その辺をどういうふうな形式を考えれば公平になるのかなど。あまり下手だったら、この地域には全然お金がおりないという可能性もありますよね。その辺も心配になってくるのです。



<p>委員</p>	<p>そういう意味ではありません。ポイントという言葉にあまり引っかからないでいただきたいのですが、発言の趣旨としては、地域の課題を地域団体だけで話し合うのではなくて、もう少し広げてはどうか、と。例えば、事業者にしても商店街にしても、地域団体と結構、親和性があるのですよ。今各地で始まっている事例としては、災害時に指定の避難所に行くのはしんどいので、近所でしっかりした建物を構える事業者さんのところに逃げ込ませてもらえるよう協定を結んでおくとか、防犯、安全、防災みたいなところで、地域から歩み寄って連携するのはよくある話ですね。大きな理念で言うと、確かに、営利主義と非営利は違うかもしれませんが、そういう個別の課題では、連携できる部分が多いなと。</p> <p>ただし、連携というのは面倒くさいのです。知らない相手と一から話し合うのは、非常に面倒くさく、エネルギーが要る。それをやろうと思わせるためには、ラウンドテーブルも必要だけれども、これまでつながらなかった相手と頑張って連携して新しい計画が出てきたら、そこには従来の水準よりもプラスした助成金が出るような制度をつくったほうが、物事が進むのではないかと思います。つまり新しい仲間とどう連携するか、どうつながりを作るかの財政的支援策として、あえてポイントという言葉を使いましたけれども、誘導することはできますよ、過去にそういう施策もありますよ、という紹介です。</p>
<p>委員</p>	<p>それも一つの考えですね。でも、そういうのは地域にはあまり馴染まない気がします。さっきも言いましたが、理念を持って、有償ではなくボランティアでするわけですから、まずは理念を持たなければ地域を説得できないのです。</p>
<p>委員</p>	<p>財政的支援の一つのメニューとして申し上げます。</p>
<p>会長</p>	<p>理念が大切だというのは、すごく重要なポイントだと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>仕組みの提案を求められているのですよね。この会議では。</p>
<p>会長</p>	<p>その意味で言うと、情報交流のところでラウンドテーブルを設置する。そしてラウンドテーブルを設置するのは何のためか。この地域をこうしたいという理念を皆で共有して、そしてそのために、誰が何が</p>

できるかということ話し合うのがラウンドテーブルで、そしてそのラウンドテーブルで具体的に誰が何をやるかという事業の計画を皆で作る、あるいは皆で知っている情報を共有して、そして、例えばここについてはコミュニティでやりましょうとか、ここは事業者さんやってもらおう、ここはNPOができるというようなことを決めていく、またその取っ掛かりを作るのがラウンドテーブルになるのだろうと思います。その意味で委員がおっしゃるように、この地域をこうしたいという志を共有するのは非常に重要です。そういう中で、先立つものが要するというのも実際のところですよ。

今までのワークショップ等が出てきている話でいうと、お金の話で言えば、市民提案型協働助成。市と市民と一緒に何か仕事をやれるようなものを市民のほうから提案する。あるいは、市がやっている仕事の中で、これは市民ができるのではないかと市民にお任せする。例えば、広報紙の編集などで、広報紙の地域版を作るのであれば、その編集は市民のほうでやってしまうなど。そんなことを市民のほうから提案して、それに対して助成をする話であるとか、コンペ方式というのは色々な事をやりたい、ある課題があって、それを解決することを提案しながら、市民の皆さんの前で企画提案をして、一番いいと思う企画に対して、補助、助成をするなど、色々なやり方があるのではないかと思います。ですから、そういったお金を地域に流していく仕組みというのも、財政的な支援としては、例えば単に補助金を出すだけではなく、ウェイト付けをした補助金を出すなど様々なやり方が必要になるのではないかと思います。

委員

この課題と解決策、本当にうまく纏めていただいていると思います。今までのお話を聞く中で感じるのですが、色々な地縁団体も企業もNPOも全部地域にあるわけです。これまでは、地縁団体同士の繋がりというのは持っていたのですが、そこにNPOや、企業や、部分的には繋がったことはあっても、なかなか入りにくかった、うまくその中でのコミュニケーション、連携ができなかったもので、今回はこういう地域分権で色々なことを地域で考えて、課題を解決するためには、それぞれの立場であっても同じ地域の中で同じテーブルにつく。その一つがラウンドテーブルであり、それが市全体でもいいし、地域で行っていくのもいいと思うのです。

企業であっても社会貢献という非常に大事な役割もありますし、色々な意味ではそれぞれの地域を良くしていったり、川西市を良くする

	<p>ことに繋がるので、もう少し地域の中でそういう仕組みづくりができるための話ができればいいのですが、今、それぞれの地域団体やNPOや企業がそれぞれの立場で入っているのですが、私が思うには、連携をする仕組みづくりを考えていこうという感じに聞こえませんが、そういう仕組みを作るための話にもう少し進めていければいいのではないかと思います。</p> <p>それぞれの立場でそれぞれの地域で貢献することがある。それを一つのテーブルで考えていく仕組みづくりの案というものを出していければいいかなと思います。その中で解決策ももちろん盛り込んであるのですが、そういうことで進められたら、より良く進んでいくのではないかと思います。</p>
委員	<p>同じようなことだとは思いますが、少し違うのですね。というのは私が非常に心配しているのは、ラウンドテーブルを設けることも乗せることも非常に大事ですが、ただ、誰がどの問題を乗せるのかということが問題なのです。だから、先程言ったように、自然に神の手が働いて、乗せるべきものが乗っていくというふうには考えられないのです。放っておいたら、ろくなことにはならない。変な言い方ですが、例えば、卑近な例ですが、自治会の値上げの問題も、財政面から言えばとくにその問題は論議していなくてはいけない。しかし、時の権力がそういうものを乗せたくないのです。そうすると誰の論議にもならない。ラウンドテーブルに乗ってこないのです。そういう問題が市レベルで色々あるのではないか。だから、嫌でもこれは乗せなければいけないというルールがちゃんと働くのか、そこが心配なのです。乗れば問題はない。乗らずにいたら、根本的な解決にはならないということを地域の問題であるだけに言うておきます。放ったらかしにならないような歯止め、仕掛け、仕組みを同時に考えておかなければ、ラウンドテーブルだけを設けたら、乗るべきものが自然に乗るという楽観的な見方ではいけないでしょう。喧嘩してでも乗せるべきものは乗せる。その仕組みが必要です。放っておいたら、皆、安易なほうに流れる。そのところを心配しているのです。</p>
会長	<p>おそらくラウンドテーブルというのは、出入り自由ですが、できるだけ多くの人に、できるだけ多くの課題を出してもらおうということから始まるのだらうと思います。その中で、今、解決すること、ここでやっているのもラウンドテーブルのようなものかもしれませんが、まず解</p>

	<p>決しなければいけないことは何だろうということを皆で話し合うという場なのだろうと思います。その結果として、ある課題が無視されてしまうことも当然有り得るだろうと思いますが、ある意味やむを得ないと言えば怒られますが、こういう課題は絶対に乗せなければいけないという決め方はたぶん無理だと思うのです。むしろ、皆が課題だと思うことを優先して取り上げていくことになるのだろうと思います。</p> <p>委員                    今の問題でも、これは私の個人的な意見かもしれませんが、地域によってラウンドテーブルに上げるのは、その地域のリーダーの資質だと思うのです。これしかないのです。</p> <p>                              それ以外でも思うのは、自治会とコミュニティ、これらの違いというのは、どこにあるのかと、よく地域の皆さんに言われるのです。今も私の地域では、「コミュニティを潰してしまえ」「自治会だけで、いいじゃないか」と。自治会は会費がたくさんあります。社協の会費を60%集めているのは自治会なのです。福祉部会は集めていない。そういうふうな権限があるから、「コミュニティの事業活動というものは、全て自治会に持ってきたらどうだ」ということで、色々やっているのです。私の意見は、「なんでコミュニティを無くさないといけないのだ」と。自治会だったら自治会の事業の担当者がもっと一生懸命、自分の部会がもっと色々な方法で地域に合うような事業活動をやったらいいじゃないかと思っているのですが。自治会のほうは、コミュニティのいいものをどんどん取って行って、コミュニティがしぼんできたら、コミュニティを潰せばいいという話しが今起こっています。</p> <p>                              皆さん方の地域でコミュニティと自治会の違い、あるいは目的、それとどういうふうに活動していけばいいのかということ、ちょっと述べて欲しいと思うのですが。</p> <p>会長                    地域ごとの話というのは、また改めてやらなければいけないと思うし、コミュニティと自治会の話は、たぶん、ここでもぐっと議論していかないといけないと思います。</p> <p>委員                    これは課題解決の基本です。</p> <p>委員                    地域別懇談会でも出たのです。やっぱり大きい自治会と小さい自治会があるのです。私のところのコミュニティは、大きいのは500件く</p>
--	---

らい、小さいのは29件、そういう自治会が混ざっています。大きい自治会は、自分の自治会のことしか考えない傾向がある。コミュニティとの関係が分からないという話があったときに、私はこう言ったのです。どちらが上とか関係なく、大きい自治会は人数も多いし、やることもできるでしょうけど、小さい自治会と大きい自治会を調整するには、やはりコミュニティという、地域全体を見渡すという形で纏めていくほうが地域全体の発展になる。自治会になると、自治会のエリアだけが発展するか、滅亡するか分かりませんが、今回に関しては、あくまでも地域ということになっているので、加茂小地域、コミュニティで纏めるほうが全体の地域を引き上げるのではないのでしょうかという説明をしたのですが。

委員

私のまちは、1自治会1コミュニティで、分散されていないから、コミュニティは要らないという意見も出てくると思うのです。しかしながら、私の考えでは、自治会は自治会の各部門の事業活動というものをもっと考えて、もっと地域に密着するような活動をしていけば、コミュニティは潰さなくてよいわけです。コミュニティはコミュニティで同じ文化の部会があったとしたら、コミュニティの文化部会は何をする、自治会の文化部会は何をするということを絶えず考えて、リーダーがそういうことを地域に持っていくと、また違うと思います。

地域によって完全にコミュニティがないところもあるのです。行政が言うから、コミュニティという名前だけのところもあるのです。これを言うとおかしいかもしれませんが、私は、川辺郡川西町の頃から川西市を知っているのですよ。私の友達も川西市役所に就職した人がたくさんいるのです。今、川西市の行政は非常に立派で賢いのです。こういう資料もすぐに出てくる。本来ならば、我々委員が地域に行つて、地域の代表と懇談をして、どういうことが問題だということ聞いてもよかったと思うのです。逆にこの席に呼んでもよいと思うのです。我々がここに座って、頭の中で考えることをパッパッと行っていく。ところが川西市の行政がすばらしいと思うのは、地域分権推進課は本当にすばらしいと私は思っているのです。ちょっと褒めすぎかもしれませんが。

そういうことで、やはり自治会、コミュニティはどうあるべきなのかを考えていかなければいけないと思います。

会長

それは大きなテーマとしてあります。ただ、今の委員のお話でも、

	<p>地域性があるので一概には言えませんが、一つはコミュニティが地縁組織の調整役としての役割があるというご指摘をいただいたのだらうと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>そうあるべきですね。ただ、委員の地域とうちの方では組織が違うので、やはり若干違いが出てくるのです。地域性がありますからね。</p>
<p>会長</p>	<p>それはそうですね。それはそれで全然かまわないと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>結構、今まで拘っていたNPOさんや事業者さんについては、私たちは地域別懇談会をした後ですので、具体的にいろいろなケースが考えられるのですが、やはりやっていく上で、NPOには、その専門のことはそこへ連絡して相談をする。仲間に入るというのではなくて、相談をする。ダイハツ等の大きい企業が地域に貢献してくれるのならば、一緒に考えていく、またこちらからアクションを起こしたらいいと思うのです。</p> <p>何が何でもNPOを地域に入れなければいけないと言われると、抵抗があるのです。必要に応じて、関係が結ばれていって当たり前だと。自然なものであって、このラウンドテーブルの中にNPOは何人入れなさいとか、事業者は何人入れなさいとかなってしまうと、ナンセンス。</p> <p>あくまでも、NPOの支持される方はどうしても持ち上げようとするのですが、やはり必要に応じての関係でないと、やはり無理があると思います。</p>
<p>委員</p>	<p>現状のNPOの状況というのは、たぶんNPOとNPOの連携も無いし、地域との連携も無いというのが現状ではないかと思います。</p> <p>一番関係するのが市なのです。行政の方とのやりとりが今のところ一番多いです。私が言いたいのは、活動の中からのことですが、左側の「市」のところに、課題を8つ書いていただいている、私は活動を通して、すごく問題だと思っているのが、「職員の参画と協働に対する意識が低い」、「縦割り組織による弊害」、そして「公平性・中立性が多様性を抑えてしまっている」です。特に私は、NPOですから、多様性のところに入ると思うのですが、やはりかなり抑えられてしまう。一般論とか中立を保つとか、そういうところに抑えられて</p>

	<p>しまう傾向が非常に強いということがあります。</p> <p>色んなジャンル、コミュニティとか自治会とか、今までお話を聞くことが無かったし、まさか横に座ってこういうことになるとは夢にも思っていませんでしたが、非常に怖いですよ、はっきりしていっちゃるし。それだけの活動を地元でなさっているのだなということを毎回実感させていただいて、頭が下がると本当に思います。やはり私達も住民ですし、住んでおりますので、どなたかがやってくださっていることがこういうことなのだと実感しました。</p> <p>やはりこれからNPOとかコミュニティとか自治会とか事業体とか色んなところが一緒にやるときに、間に入ってくるのは市の職員の方だと思いますので、お金が出てくるときなどは特にだと思いますので、そのときに職員の方には、もっと意識を高めていただかなければいけないし、変わっていただかなければ、今のままではしんどいかなと、私は思っています。</p>
会長	<p>そのために、具体的にどんなことが必要なのでしょうか。</p>
委員	<p>すごく飛躍した話なのですが、私たちの活動、たぶん自治会もそうなのですが、実際にやっている人はすごく分かっているのです。どうということが問題になって、どうなっているかと。でも、やっていない人は、話や書かれたものは分かるけど、やっていないから、それは頭の中だけなのですね。それが市の職員の人達だなんて思っていて、できれば、1年間くらい課長以上の方が、一緒にやっていただくのはいかがかなと。下の方はいいです。課長以上の方がいいなと私は思っているのですが、いかがでしょうか。</p>
会長	<p>管理職研修ですね。</p>
委員	<p>今回、地域別懇談会は何人か参加していただいています。何人かではなくて、今日の事務局の人は全員ですね。感想はどうでしょうか。各地域に行って、初めて一緒に、こういう会議ではなく、地域の声を直接聞いたと思うのですが、どう感じたか。カルチャーショック的なものはありましたか。</p>
事務局	<p>カルチャーショックみたいなものは無いと思いますよ。</p> <p>さきほどの話、もう少し具体的にお伺いしたいのですが、ちょっと</p>

	<p>抽象的で「意識が低い」と言われるとそうかなとなるけど、具体的な場面場面でどういうことが、委員の活動を通して、意識の低さを感じたのかというところを差し支えない範囲でもう少し聞かせていただきたいと思うのですが。</p>
委員	<p>この場でですか。</p>
事務局	<p>言えるようなら言ってください。</p>
委員	<p>ちょっと考えます。</p>
委員	<p>縦割り組織による弊害というのは、結構あります。私は自分の自力で、人間関係で横を繋げていくという感じです。行政の人で、あの人に言ったらいいのねといっても、その人誰というくらいのこともあり得ます。</p> <p>それと、はっきり組織は言えませんが、昔、「ネットワーク」という言葉がついていた会議がありました。ネットワークにならないのです。お互いのことを守りに入って、なかなか調整しにくいというのが行政です。課長クラスが出るような会議でも、自分の課を守っているのか自分を守っているのか良く分からないのですが、意見すらなかなか出ない。1年くらいかけてなんとか意見が出るようなときもあるくらいですから、その辺はどうなのかなという感じですね。本当に横のネットワークが必要な会議もあるのですが、一致団結して川西市を守らなければいけないというようなことがあったとしても、なかなか立場以上のことは、言うてはならないというような雰囲気があるので</p>
会長	<p>お互いの仕事を侵犯しないようにということでは進まないということですね。</p>
委員	<p>本当に地域を盛り上げてもらうために、本当に助けてくれるのかなという心配はありますね。</p>
委員	<p>私が感じているのは、微妙に違うのです。市の弁護をしたいわけではないのですが、皆さんが今おっしゃっているほど、意識が低いとか、パワー不足だとかは思っておりません。非常によくやっていただい</p>



ております。敢えて申し上げます。それは、どこが違ってくるのか。結局は、こちらの市に対する態度の違い。こっちが深く突っ込んでいて、お腹とお腹がぶつかり合うくらいやれば、それなりの反応はしていただいております。だからこちらが10歩も20歩も離れたところから「いかがですか、頼みますよ。」と言っても、それなりの距離での返事しか返ってこない。だからもっとこっちから懐へ飛び込むというか、それくらいのことをしないければ、それまで役所の敷居が高いとか、昔の伝統を引きずっているのかもしれないが。例えば朝の早い時間に向こうから恰幅のいい人が来る。多分、部長なのですよ。私のほうから「おはようございます」と言って初めて「おはよう」としてくれる。まだまだ色んな問題があると思います。

しかし、今の市役所の方は、若い人も含めて、頑張っておられますよ。たいしたものだと思いますよ。教育もされていますし、新しく入った人なども僕らの目線に立って、よくやっています。ただ、さっきおっしゃったように、自分の意見が無いということでも、私は何度かぶつかりました。それは、それなりの事情があって、意見を言っておられないのか、能力がないから意見が出ないのか、何かを怖がって言わないのか、その辺確かに問題はあります。だけど、全般的に言うと、非常によくやっています。

委員

平たく言うと、私は福祉部会のリーダーをやっていますが、そのリーダーになったら、自分は市長にもよく見て欲しいし、誰それにもよく見て欲しいし、行政に対して色んな意見を言っていくのだけど、なんで地域のことを一生懸命やってくれないのかという考えも出てくるのです。これはどうしても仕方がない。行政の皆さん方に言いたいのは、地区によってよく理解してあげて欲しい。理解することによって、行政は何をしなければならぬのかが決まってくると思います。今のお二人の委員がおっしゃったような話もあります。しかしながら私とすれば、どこの地域のことで、分かってあげてほしいというのがお願いです。

会長

ここには地域担当職員制度のことが書いてありますが、地域担当職員制度という形で、一人が深く知っているのではなくて、川西市の職員がちゃんと地域の特性を理解しているというのが望ましい状態で、そのためには、例えば、NPOとか自治会活動とかそういうものに市の職員が積極的に参加するということが必要なのではないかという

	<p>ことですね。</p>
<p>委員</p>	<p>地域担当職員制度というのがありますね。これは何の目的でやるのですか。前回出ていないので少し分からないのですが。まとめ役になるサポートなのか、ストッパーみたいな形なのか、それとも行政と地域の繋ぎなのか。地域担当職員制度について、説明していただきたいのですが。</p>
<p>会長</p>	<p>これも具体的にどういうものが望ましいかというのは、今後ここでも検討していかなければいけないことだと思います。基本的に来年になるのかな。</p> <p>どうあるべきかと言えば、少なくとも、私が思うに、地域の御用聞きでは絶対ないだろうと。こんな課題が地域にはありますよと言って、市役所に伝えるだけではないだろうと。地域で解決するような、ラウンドテーブルを作って、それを仕掛けたり、そこで議論を集約したものを、これに対して市はどういうふうな支援ができるのだろうかということを課題提起できるような、そんな役回りなのかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>これも来年の絡みになりますが、地域で色々しますよね。その後、失敗するというか、うまくいかない、地域に利益をもたらさなかったというか、あまり役に立たなかったという結果もあると思うのですね。その際、公金を使うということにははっきりしていますから、その辺の責任というものは、発生するものなのですか。それがあるとリーダーは大変な重荷をもってしまうということで、なり手がいなくなってしまいうということもあり得ます。よく会議などでも、わーっと話が盛り上がるのですが、最後に「やる人は誰？」というと誰も手を挙げないというのはよくある話なのです。だからその辺の責任を課してしまうのかということも心配です。今、補助金ですが、ちゃんとした使い方なら問題ないということですが、こういうふうになん百万というお金が動くとなれば、やはりちょっと違うのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>当然、何も無かったでは済まないだろうなと思います。その責任の取り方というの、何らかの形では考えておかなければならないと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>悪いことをしたら別ですが、一生懸命やってもうまくいかないこと</p>

<p>委員</p>	<p>もありますので。</p> <p>先程の件ですが、具体的に細かいことをいうのは、差し控えさせていただきたいのですが。</p> <p>委託事業というのをやったときに、委託事業というのは、「この事業だったらこの団体が最適だろう、ノウハウとかソフトの面はたくさん持っているからいいだろう」と思って委託されると私は認識しています。しかし、非常に管理をされている感が強いのです。それが私達が頑張るってやる意味とすごくギャップがあって、楽しんでやれないというか、そういう感が強くあるのです。それともう一つは、例えば一つの課で活動していて、そこでは私たちの団体のことをかなり知っていただいている。でもその横のところに用事があって行ったときは、全くご存知ないというのが普通だという感じで、それはいかなものかと思います。</p> <p>例えば、うちなら子ども関連と若者関連だけですが、横のセクションに行くと「誰ですか」という感じです。そういう情報はどうなのかなと思います。せめて川西市の職員でしたら、川西市の中で起こっていることくらいは、把握していただいて、勉強していただきたい。それは私たちの活動だけではなくて、事業の方も全てやっていただいて当たり前じゃないかなと。そうすると対応とか、次の考え方も変わってくると思います。あまり具体的には言えず、申し訳ありません。</p>
<p>事務局</p>	<p>いえ、よく分かりました。</p>
<p>委員</p>	<p>先程、コミュニティの話など色々出ていましたが、やはり参画と協働なり、地域分権を考えていく中で、ラウンドテーブルであったり、先程コミュニティの話もされていましたが、やはり一番大事なものは、それぞれの立場を尊重することと、やはり対等の立場ですよね。例えば、企業がそこに参画する場合、大企業と小さな企業であったとしても、対等ですよね。その場で色んなことがあるときに、よく話し合い、相手を否定しない。意見の食い違いは色んな面が出てくると思いますが、そういったそれぞれの団体を尊重する。先程、自治会とコミュニティという話も出ましたが、コミュニティというのはあくまでもそれぞれの地縁団体も含めての団体を尊重して横の連携を図るものですよね。それを守るといって、それが大切な部分だと思います。これから話し合いをしていくときに、コミュニティの中にNPOが入られ</p>

たり、いわゆる企業が入られたり、地域分権で色々な課題や事業を考えていくときに、コミュニティの中にはなかなか入りづらいということでしたら、それプラス今の企業やNPOが入った新しい仕組み、受け皿を検討する体制を作って、その中に理念と言えるのか分かりませんが、それぞれの立場を尊重する、対等であるということを中心に話をしていけば、ある程度、皆で川西をよくしていこうという考えに立っているのでは、話し合いが進んでいくのではないかと思います。

会長

ラウンドテーブルにせよ、地域で話し合うときの基本的な態度ですね。具体的には相手を尊重する姿勢が何よりも大切ですね。項目はまだたくさんあるのですがいかがでしょうか。

委員

基本計画の策定について、課題解決策の検討ということですので、その点について少し、具体的な新しい解決策ということではありませんが、見せ方について感じていたことをお話ししたいと思います。

「何か足りないな。どういう見せ方が足りないのだろう」と考えていたのですが、これは川西市をより良いまちにしていこうのために参画と協働を推進していくということですので、誰がそれをするのかといえは、「人」です。色々な人の切り口で課題があり、その解決策があると思うのですが、「何が足りないのだろう」と考えたときに、すでに自然発生的に参画と協働がなされていて、自治体が魅力あるまちにどんどん進化していったまちをテレビでよく見るのですが、あれはやはり、器である市自体に魅力があったり、その市自体の器の魅力を上手に発掘して、上手に提案していく。そういうまちというのは、参画と協働が自然発生的に行われてきているように感じます。その魅力を広げていくためには、それらに関係している人が自然と集まってきて、まちづくりが進化していつているのかと思うのです。

そうであれば、川西市というのは、今までの意見の中で、あまり特徴が無い、イチジクくらいかなとか、北と南で色々考え方が違うとか、ふるさと意識が無いとかいう意見があったのですが、この解決策の中に、今は(1)から(4)まで、人・情報・意識・お金などで区切りがあるのですが、そこに「市の魅力を発掘・提案するしくみ」というのが、そもそもあるべきではないかと思います。市の魅力を発掘・提案できれば、自然とそこに人が集まってきて、自然とそれに必要な人が集まってきて、協力をします。そこには、自然と同じ志があって、目標を達成していくのではないかと。そうなったときに、たぶん解決策

に具体的に出ている、地域ごとのまちづくりであったり、担当職員制度であったり、コミュニティビジネスであったり、コンペ方式によるものであったり、人・職・技術を応援するとか専門性を応援するとかいうところが集約されてくるので、新しい解決策ではないのですが、見せ方として「市の魅力を発掘・提案するしくみ」というのを一つ入れれば、一市民としてとても分かりやすい。

具体的にどのようなイメージかということ、この間もテレビでやっていましたが、市の南部の方では、日本で初めてのイチジクですよ。イチジクの中でも、とても高級なブランドですね。それを活かそうと考える。この界隈に来ると、例えば、その三角公園では皆が楽しめるお祭りが2週間に1回定期的に開催される、人が集まるエリアとか。例えば、山下には文化的な財産もあって、町並みもあって、それを活かして、京都で言えば町家をどうにか活かして活性化しようというように、お店であるとか、観光であるとかを考える。中央北地区はどうか分からないですが、例えば、近未来的な町、理想的な町がそこにはあって、人が集まってきて、歳をとった方や若い方が集まってくることが北地区の魅力であるとか。例えば、清和台地区や緑台地区などは、高齢化が進んでいる、大和もそうですね。でもそこに行けば、モデル的な福祉の制度があるとか、介護に対する対応策があったり、そういうことに特化した町にするとか。そういうふうにして市全体としての魅力をエリアごとに、もちろん自治会、コミュニティ、小学校区とか色々な括りがあるのですが、魅力ごとにエリア分けをして、魅力に対して必要な人が集まるし、例えばここをB級グルメ街とすれば、事業主が集まるし、そういう志を持っている人が集まるし、コミュニティも「面白いね」と集まるし、福祉を魅力的にするエリアであれば、そこには福祉を専門にするNPOが入ってきたり、色々なノウハウを持った、コミュニティも自治会もいて、市民病院があるところには最新医療設備が整った代表的な病院があって、関係者がより集まって、福祉と医療であれば、そこには福祉を専門にしているNPOなどが色々来て、駅前の空きスペースを利用している場所では保育などをして、働きに出る若い世代を応援できるものが駅エリアにあるとか。そういうふうになると市がどういうふうになっていくかの全体像がよく見えてきますし、どこで自分の能力や技術や思いを活かしていくのかが見えやすいのかなと思いました。新しい解決策は無いかもしれませんが、見せ方として、「市の魅力を発掘・提案するしくみ」という一つの両括弧を作れば、分かりやすくなって、人も集めやすくなって

<p>会長</p>	<p>、というふうに考えておりました。</p> <p>それは重要なことですね。地域をどういうふうにしようかと計画を作る時に、今あるものがどうなのかという評価は絶対しなければいけないし、そういう時に、他の地域の人からしか評価されないようなものが、実は地域で転がっていることが結構あって、そういう地域の資源をどう評価するのかというのは、地域の人よりも外の人のほうがちゃんとできたりするのですね。そういう評価の方法や、<b>地域資源を発掘して評価して、それを生かしていく</b>ということも考えなければいけません。</p> <p>もう1点は、例えばお年寄りが多いからとか、そういう地域特性において、こういうまちづくりをしていこうというときには、それは市全体の中での位置づけをちゃんと明確にしておかなければいけないし、いたるところでB級グルメ街ができると共倒れになるわけで、それはちゃんとうちでやるというような棲み分けみたいなものは入れておかなければいけないということになりますね。</p>
<p>委員</p>	<p>おっしゃるとおりです。ただ、既にあるものがあるのですよ。新しく発掘することも大事です。しかし既にあるものをもっともっと活かす方法をまず考えなければいけない。例えば、川西に青木大乘というものすごい画家がいます。あの人の作品は、車を持っていない私なんかが行けないところにある。それは誰でも親しく見たいときに見られるように、市が努力して市民に近づける努力をしないといけない。古墳でもそうです、いっぱいある。それは行政の怠慢とまでは言いませんが、市民のニーズを十分に汲み取っていないということになるのではないか。それからもう一つは市民の側にも責任がある。はっきり言って、市民の側に鑑賞するべき価値あるものを正しく鑑賞するセンスというか、市民としての成熟度が低い。あえて言えば、そういう面もある。学校が教育しなければいけない。もっと教育するべきなのは親です。親がそういう教育を全然していないのです。私は古い人間かもしれませんが、見ていたら情けない。何も難しいことではなく、1日20分ちょっと子供に話をしてやれば済むことなのに、それさえしていない。だから、良いものを良いものとして鑑賞して味わうというセンスが育っていない。だからこれは市だけが悪いわけではない。市民の側にも問題がある。仕組みづくりですよ。仕組みづくりを皆でどういうふうに知恵を出してやっていくか。ハードだけではなくて、その辺</p>

<p>委員</p>	<p>の仕掛けも必要だということなのです。</p> <p>今日の会議では、推進会議で出す方針に向けて、行政から提案された解決策の案を検討し肉付けする、というのが本来の話だと思いますので、10点くらい申し上げます。</p> <p>まず1点目、情報収集の部分で、「行政内部での地域情報等収集、共有のしくみ」となっているのですが、行政内部だけで情報を持っていても仕方ないので、情報を地域と共有することを盛り込んでおく必要があります。地域自治の推進方策として、地域ごとのカルテ作りから始めるという話ですので、「行政内部」というのを改め、具体的に「地域カルテの作成（に向けた情報共有）」というのを入れたほうが良いと思います。</p> <p>2点目、情報発信のところで「苦情を開示」などのマイナス面の話ばかり出ていますので、グッドプラクティスにつながる方策も入れたほうが良いでしょう。色んなパターンがありますが、たとえば、高齢化率が進んでいるところではこんな取り組みが多いとか、新しい人が移り住んで来たらこういうアプローチをしているとか。市内だけでなく市外の情報でも構わないと思います。そういう地域連携のお手本になるようなグッドプラクティスの方法も入れておいたほうが良いというのが、2点目です。</p> <p>それから（2）の担い手の発掘の「人材発掘」のところが、漠然としている。「特技や職の専門性を活かした協働のしくみ」「『やりたい気持ち』を受け止める場の開設」も大事ですが、それだけでは分からない。先程の地域カルテの話にも繋がるのですが、この地域の課題はこれで、解決に向けて具体的にどういう人材が欲しいのか、ということまで分かっていなければ、なかなか手も挙げづらいでしょう。情報収集、発信と人材発掘のところ、欲しい人材像の絞り込みのようなものを入れると前後のつながりが出てくるのではないかと思います。</p> <p>人材育成のところでは「投票するしくみ」というのはよく分からないので省いたほうが良いと思います。それから に市民コーディネーターの育成、リーダーを育てるという話がありますが、リーダーだけではなくて、市民活動を現場で担っている人達、コミュニティの部長や自治会の会計さんらに、簡単なITの講習や活動上の工夫を伝える講座を行うなど、担い手の裾野を広げる講座があってもいいのかなと思います。</p> <p>人材育成のところでは、先程から話題になっている事業者について</p>
-----------	--

、CSRや地域貢献に取り組む事業者さんを応援するというようなものもあっていいかと思います。

下のほうに行きまして、(3)の市職員の意識改革ですが、先程からのお話を聞いていると「行政のサポート力の強化」よりも、むしろコミュニケーション能力なのかと思って聞いていました。市民の中にきちんと入って行って、行政の考えをちゃんと伝える、市民のコーディネートをやる、そういうコミュニケーション能力について、具体的に盛り込んだ方がいいと思います。

それから市職員の意識改革に関連して、一番上の情報収集のに戻りますが、本来は総合的な情報窓口の設置をしたら、それが行政内部の改革に繋がらないと駄目なのです。現場ではこういうことを言っているというのが、全庁的に伝わる仕組み、システムとして機能させる、ということです。縦割りを排して横断的に動ける仕組みと同時に、現場の情報を吸い上げきちんとフィードバックする仕組みが必要です。これがたぶん、地域担当制の中の情報共有とか、彼らから上がってきた情報を活用する仕組みだと思いますが、それを関連づけて入れておかなければいけないと思いました。

その下の「市民等の意識改革」については、先程、社協の方が言われた尊重とか対等、パートナーシップといった心構えみたいなものを是非入れ込んでおくべきだと思います。

(4)財政的支援策のところ、できれば補助金改革、包括補助金とか包括交付金とかを盛り込みたいですね。今は複数の部署から目的別にばらばらに出ていて、地域にとっては非常に使いにくくなっているので、トータルで使い勝手が良い制度に改めていく補助金改革も入れておいていただきたいな、と思います。

最後の評価・検証のしくみのところで、今日の会議の前半でも話題になりましたが、これは協働に限った評価ですよね。公金を使っていない市民活動を評価する必要はありません。モデル事業になっているところや、公金をつぎ込んでやっているところの協働を評価する仕組み、費用対効果としてどうなのかというところの話なので、評価する対象をきちんと決めておくべきかと思います。以上です。

会長

おそらく今日で全部出尽くしたとは思えないので、次回も続きで具体的なことを、お考えのことについて議論を続けていきたいです。この際ですので、こういうことについては、こういう解決策が欲しいということがあれば是非お出しいただきたいです。



<p>委員</p>	<p>こういうところに課題がありますという意味で、お聞きいただきたいのですが、例えば、私、阪大病院に通う場合があります。湯山台に住んでいるので、湯山台からバスに乗って、能勢口まで出て、能勢口から阪急電車に乗って豊中まで行く。そこから阪急バスに乗って、病院まで行く。つまり、どうしてわざわざ能勢口から阪急電車に乗らないといけないのか。猪名川の川を一本渡るだけです。同じ阪急がやっているのです。市境を挟んで。それを同じように連絡すれば、私は往復400円も要らないし、往復30分も余計な時間がかかる必要もない。ものすごく楽なのです。それは行政の壁なのです。</p> <p>卑近な例として言いましたが、市と市の境にあるような問題を課題として挙げておかなければいけない。そうでなければ、誰の目にも触れないところで、落っこちてしまいますよと。たぶんそういう問題が出ていないのではないかと、私が指摘すれば、敢えてそういう話は推進会議では出なかったとお役人の方は言う。そういう問題があるなら、なぜ言わなかったのかとなるといけないから、敢えて申し上げておきます。</p> <p>市だから市の中の問題のみをやるのではなくて、ものすごく無駄、これがあればものすごく便利、市民生活が豊かになる。それは、通院の問題だけではありません。福祉の問題もあるし、教育の問題、色々な問題がある。そういうところも目を通していただきたいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい。市を越えるとか県を越えるというものに対して、正に参画と協働をどうするのかという大きなテーマであります。市民の参画と県境超え、市境超えの協働というテーマが非常に捉え辛くなっているのは確かだろうと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>最後の方の議論は、元々の地域分権から出てきた、参画と協働のまちづくりという考え方から1段2段レベルアップした考え方ですね。確かにいいことなのですが、それを考えるとこの推進会議は大変だなと思います、正直。</p> <p>先程から具体的な内容を言われましたが、私もこの解決策を初めて読ませていただいて、頭では考えていたのですが、なかなか具体的に出てきません。いわゆる一つの事例があって、これを再度じっくりと見させてもらって、既に形にされているところも何か所かあるのです</p>

<p>市民活動センター — 委員 事務局</p>	<p>ね。一番上も、「総合的な情報窓口の設置」となっていますが、自治会活動、コミュニティ活動、色んな活動で言うと、地域・相談課があって、そこに行けば、解決はできませんけど、相談に乗ってくれると。そういうふうないわゆる窓口も既にあるわけですね。それは皆さんがご存知ないだけの話であって、行政の方のPRが足りないのかという気はします。</p> <p>一番下の項目については、明らかに追加されたものですが、今回の地域分権の内容に絡んでいるなと思います。この中でちょっと気になったのは、「コミュニティを通じた市政運営の仕組みづくり」で、これはすごく大事なことなのですが、コミュニティだけに拘ってしまうと、傍聴に市議員の方もおられますので、市民代表として、市民から選ばれた人の行政に対するチェック、色んな行政の施策に対する意見があると思うのです。それとは別に単独に、コミュニティの組織でやった場合、色んな問題が出てくるなという気がします。各議員さんの中には、それは良しとしないという考え方を持っている人もいるかもしれません。</p> <p>それともう一つ、最後ですけど、市民活動センターの「市民活動 やっていると役に立つ講座」というチラシを見せてもらいましたが、これが正に情報のPRかなと思います。参画と協働というのは、どういうものであるか。7月3日のキックオフでやりましたが、それだけではなくて、このようなことを、市民活動センターでやっていただくのは、非常にありがたいと思います。ただ希望を言うと、3回出席できる人が優先と。それと20名というのが、倍くらいにしてもいいのではという気はしますが。これが本来の情報のPRになると思うのですよ。だから行政ができなかったら、NPOを通じてこういうふうな広報活動をどんどん広げていってもらうのも良いことだと思っています。よろしくお願いします。ちなみに、27日は行けないのですが。</p> <p>もちろんお待ちしておりますし、20名超えても部屋には入れますので、どんどんお越しください。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>一言だけいいですか。先程、委員からおっしゃっていただいたのですが、冒頭、事務局の方からも念押しさせていただいたのですが、今日お出しした資料1というのは、行政側がこの解決策を作ったのでは</p>
--------------------------------------	---

	<p>なくて、これまでのワークショップと推進会議で出されたご意見をベースに、参考としてまとめたものでございますので、決して のところ特に、我々もこういうことは今のところは考えていないとはっきり申し上げておきます。</p>
<p>委員</p>	<p>前回の資料の中にも、1億3千万ほどの総合的なお金が出ていると。全部見させていただきましたけれども、確かに偏っている部分がありますよね。例えば、地域・相談課も自治会報償金に結構使っていますが、それ以上に使っているところがすごくある。ごみの収集に関しては、ものすごい金額です。あと福祉政策課のほうでは、一つの地区の民生委員・児童委員に、250万円くらい出ていますね。行政全体から考えると削減、見直しが必要かと思います。前回、委員が「1億3千万円も使って無駄じゃないか。もっと有効的な使い方があるじゃないか」と言っていましたけれども、確かに私もそう思います。その辺の見直しも、この推進会議の中でしたいのだけど、本筋が外れるかもしれません。</p>
<p>会長</p>	<p>有効なお金の使い方をどういうふうに決めていくのかというのも、ここでの大きなテーマになると思います。時間がだいぶ8時に近づいてきましたが、市民活動センターから、このチラシ以外の件で何かいただければと思いますが。</p>
<p>市民活動センター</p>	<p>解決策案のところ、これまでのワークショップだということなので、たぶん条例を決める時のワークショップで、私たちも参加させていただきましたが、その後指定管理者制度も始まりましたので、見ている項目の中では既に動いて、私どもも今2年目になって、十分とは言えませんが、市民視点を生かしてやっている中で、できている項目もあるのではないかと見ておりました。なので、全部が未だできていないというわけではないのではないかなと。チェックを入れてみたら、10項目くらいは、私たちは本年度事業でやっているところはあるつもりです。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。時間があと数分になってしまいました。ご提案もございましたが、次回も今日の続きをやりようと思っています。なかなか具体的な解決策ということで、すぐに出てくる話ではないということです。</p>

申し訳ありませんが、皆さんお考えをまとめていただいて、できれば事前に送ってもらおうといいですね。そして今日の議論をこの横に追加する形でまとめていただく。そして、次回の会議までに思いついたことがあれば、事前に送っていただくと追加しやすくなるだろうと思いますので、今日出てきた意見と、その後追加した意見がわかるようにしておいていただければ、それを踏まえて議論できるだろうと思いますので、事務局の方にお寄せいただければと思います。

～次回日程 11月1日(火)18:00～に決定～

では、次回は、具体的な解決策の項目出しの最後をやりましょう。できるだけ色々なネタを出していただいて、事務局の方で具体的な推進計画の全体図を作れるように、私たちも知恵を出していきたいと思っています。10月の中ごろまでに、なるべく早く意見をいただきたいと思っています。

終了